

伝統行事

こだち 木太刀の舞で豊作祈願

御厨町寺ノ尾上地区にある八幡神社（森川典幸宮司）で12月15日、木太刀の舞が奉納されました。

イタビの木で作られた太刀を担いで舞う神楽で、江戸時代からの伝統行事。太刀が大きいほど翌年は豊作になるとの言い伝えがあります。

氏子の田中祐毅さん（35）が朝から約2時間かけて作った太刀は、長さ1.2^{メートル}、重さ15^{キログラム}。今福神社の早田伸次^{しんじ}禰宜が木太刀を担ぎ、笛と太鼓に合わせて舞を奉納し、集まった氏子ら約25人が来年の豊作を祈りました。



ジャンボ鬼小屋で鬼火たき

1月7日、市内各地で鬼火たきが行われました。

鬼火たきは、しめ縄や門松に火を放ち、1年間の無病息災や家内安全を祈願するものです。

調川町松山田地区では、久保川志丸^{しまる}さん（56）が昨年11月末に、高さ6.5^{メートル}、幅約5^{メートル}の四角すいのジャンボ鬼小屋を約3日かけて制作。1月7日に、地区の住民たちが持ち寄った門松などを鬼小屋の中に入れ、久保川さんが火を放つと勢いよく燃え上がりました。

もぐら打ちで無病息災を祈願

1月初旬、無病息災などを祈願する「もぐら打ち」が市内各地で行われ、新わらで作った「もぐら打ち棒」で玄関の床をたたいて、無病息災や家内安全を祈願しました。

①上志佐保育所（辻久敏所長）では1月13日、園児28人が指導者の吉田潔^{きよし}さん（志佐・笛吹）と一緒に「14日のもぐら打ち かねくら こめくら 祝いましょう…」と声を合わせて叩きました。

②今福保育所（梶島洋子所長）では1月15日、園児64人と今福長寿会（田中一郎会長）の会員約20人と一緒に声を合わせて叩きました。

③星鹿町星鹿地区では1月6日、小中学生10人が地区内の約120戸を2班に分かれて回りました。



①



③



②

年の末年始の



百手講で 10 本の矢が命中

志佐町庄野地区の王嶋神社で1月8日、百手講が行われました。

的に当たった矢の数で今年の豊凶を占うもので、市の無形文化財に指定されています。

今年の射手は、松永俊一さん(37)と武尾和彦さん(35)。烏帽子と狩衣姿の2人が約10^{しゅんいち}離れた場所から直径50^{かずひこ}の的をめがけて約50本の矢を放ちました。地区の住民が見守る中、10本を命中させ、内一本は的を支える竹にささりました。中川明宏^{あきひろ}宮司は「矢が竹にささるのはとても珍しいこと。困難なことに遭遇しても信念をもって事にあたれば乗り越えられるでしょう」と話していました。

大杯で酒を回し飲み

12月24日、志佐町池成地区に約300年以上前から伝わる「佐々木祭」が行われました。

池成地区には、平戸藩士でこの地域を治めていた「佐々木様」が、参勤交代で留守にしている間に妻の不義のうわさを耳にし、大酒を飲むようになったという故事が残っています。

今では「佐々木祭」として、先祖が佐々木様の同士だった同地区の5世帯が、命日といわれるこの日に持ち回りで毎年開いています。

地区にある佐々木様の墓参りをした後、今年の当番にあたる小島辰美^{たつみ}さん宅に5世帯から10人が集まり、直径40^{たつみ}の大杯で酒を回し飲みし、霊を慰め親ぼくを深めました。



経箱をくぐって無病息災

大般若という経典が入った経箱の下をくぐって1年間の無病息災を祈願する「大般若さま」が1月8日から14日にかけて、志佐町の8地区と福島町の5地区で行われました。

江戸時代、この地方に疫病が流行したとき、大般若経に願をかけて疫病を退散させたのが始まりとされています。

志佐町下高野地区では、11日午前7時から、同地区の小原正志^{まさし}さん(54)、野中昌樹^{まさき}さん(54)、三股保弘^{やすひろ}さん(45)、原尾光広^{みつひろ}さん(38)の4人が「だいはんになー、はーらみったー」と大声で叫びながら、重さ約10^きほどの経箱を担いで地区内の約120戸を回りました。

